

2020年3月期 決算について

株式会社AIRDOは、本日5月29日(金)、2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)決算をとりまとめました。詳細につきましては、別添の「2020年3月期 決算短信(非連結)」をご覧ください。

1. 2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)の業績

(1) 概況及び経営成績

当事業年度におけるわが国経済は、個人消費に持ち直しの動きがみられ、堅調な企業業績等を背景に、緩やかな回復基調が続いていましたが、年度末にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響により、景気が足下で大幅に下押しされる結果となりました。また、北海道経済においても、インバウンド需要を中心に堅調に推移していましたが、感染症の影響が比較的早期に発生したこと等により、厳しい状況となっています。

国内航空業界においては、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、インバウンドの増加を背景に旅客需要は堅調に推移していましたが、感染症の影響により運休・減便等を余儀なくされ、先行きは不透明な状況が続いております。原油価格については、世界的に大幅な需要減少となっていること等により急落しました。

当社は2019年4月に「2019～2023年度 中期経営戦略」を策定し、『北海道の翼として、私たちAIRDOは変革に挑戦し、お客様の期待を超える感動を提供します。』をビジョンとして掲げました。当社にとって「転換期」と位置づけ「人材戦略」と「機材戦略」を最重要課題の2本柱として定め、新たな事業構造への基盤構築に向けて取り組んでおります。このような状況のもと、感染症の影響を受けるまでの間においては、営業面・運航面ともに着実に施策を講じてまいりました。

営業面においては、競争力のあるきめ細やかな運賃設定と需要予測に連動した精緻な座席コントロールを行ったことや、ゴールデンウィーク、夏休み期間を中心に臨時増便ならびに深夜便を機動的に設定し、利便性向上による増収を図りました。

運航面においては、上期に定時到着率93.0%と特定本邦航空運送事業者12社中1位を達成しました(CIRIUM社調査による)。2019年9月には新機材としてB767-300ER型機1機を導入し、機内品質の向上を図るとともに、提供座席数の増加、予備機材としての活用による定時性向上・欠航率の低下に努めました。なお、導入にあたっては、北海道の金融機関を中心とした協調融資(シンジケート・ローン)を通じて資金を確保しました。また、2020年2月に、当社として初めてとなる「とちぎ帯広空港」発着の国際線チャーター便を運航し、道内のお客様の利便性の向上はもとより、就航先である台湾のお客様にも冬のひがし北海道の魅力を感じていただき、北海道観光の需要促進に貢献しました。

これらの結果、中間会計期間としては旅客数が過去最多となる等、2020年3月期業績予想の上方修正を行い堅調に推移しておりましたが、年度末にかけて感染症の影響による航空需要の低下を受け、最終的には業績予想を下回ることとなりました。

当事業年度における営業収入は、コードシェアによる座席販売分も含め、45,545百万円(前年同期比1.5%増)となりました。

費用面では、整備費の増加、原油価格の上昇等を主因とした航空燃油費の増加により、事業費は38,988百万円(前年同期比4.4%増)となりました。販売費及び一般管理費は、消耗品費の減少等により4,281百万円(前年同期比4.4%減)となったことで、営業費用は43,269百万円(前年同期比3.4%増)となりました。この結果、営業利益は2,275百万円(前年同期比25.3%減)となりました。

営業外損益において、営業外費用が増加したこと等により、経常利益は1,629百万円(前年同期比31.5%減)となり、当期純利益は424百万円(前年同期比61.4%減)となりました。

【経営成績】

項目	前事業年度	当事業年度	増減	増減率(%)
営業収入 (百万円)	44,872	45,545	+672	+1.5
営業費用 (百万円)	41,827	43,269	+1,442	+3.4
営業利益 (百万円)	3,045	2,275	△769	△25.3
営業利益率 (%)	6.8	5.0	△1.8	-
経常利益 (百万円)	2,378	1,629	△748	△31.5
当期純利益 (百万円)	1,099	424	△675	△61.4

(2) 運航実績、輸送実績

【運航実績】

項目	前事業年度	当事業年度	増減	増減率(%)
運航便数 (便)	21,093	21,470	+377	+1.8
就航率 (%)	98.2	99.1	+0.9	-
定時出発率 (%)	90.8	93.1	+2.3	-

【輸送実績】

項目	前事業年度	当事業年度	増減	増減率(%)
提供座席数 (千席)	2,835	2,969	+134	+4.7
旅客数 (人)	2,129,570	2,037,934	△91,636	△4.3
旅客キ口 (千人キ口)	2,003,743	1,912,774	△90,968	△4.5
座席キ口 (千席キ口)	2,668,468	2,786,072	+117,603	+4.4

(注) 輸送実績には、全日本空輸株式会社への座席販売分を含めておりません。

【路線別座席利用率】

路線	前事業年度	当事業年度	備考
「札幌－東京」線	75.8%	69.7%	
「旭川－東京」線	74.7%	69.1%	
「女満別－東京」線	73.5%	68.8%	
「釧路－東京」線	77.7%	71.9%	
「帯広－東京」線	73.4%	64.0%	
「函館－東京」線	73.9%	66.4%	
「札幌－仙台」線	71.5%	59.6%	
「札幌－名古屋」線	76.9%	72.1%	
「札幌－神戸」線	72.0%	62.7%	
「函館－名古屋」線	81.0%	74.7%	
路線の平均	75.1%	68.7%	

(注) 路線別座席利用率には、全日本空輸株式会社への座席販売分を含めておりません。

(3) 財政状態

【財政状態】

項目	前事業年度 2019年3月31日	当事業年度 2020年3月31日	増減
総資産 (百万円)	50,276	45,543	△4,733
純資産 (百万円)	13,851	12,851	△1,000
1株当たり純資産 (円)	297,882.56	276,364.05	△21,581.51
自己資本比率 (%)	27.6	28.2	+0.7

2. 2021年3月期の見通し

我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により景気が急速に悪化しており、今後も極めて厳しい状況が続くと見込まれております。国内外の経済がさらに下振れするリスクも懸念され、個人消費の低迷や企業収益の減少による航空需要への長期的な影響は避けられない情勢となっております。

このような状況下において、当社は運航計画の変更による航空燃油費等の運航関連費用の抑制を図りながら、営業関連費用や設備投資等の見直し、従業員の一時帰休等を通じたコスト低減に努めております。また、手元流動性の確保に向けた資金調達についても金融機関と調整を進めております。

緊迫する実状に対処しながらも感染拡大の状況や景気動向等に注視し、需要の回復局面においては速やかに事業の回復を図り公共交通機関としての役割を果たすべく、全社一丸となって適切に対応してまいります。

なお、2021年3月期の業績見通しについては、現時点において合理的に算定することが困難なことから未定とさせていただきます、開示が可能となった時点で速やかに開示いたします。

以上

(別添)

2020年3月期 決算短信 (非連結)

2020年5月29日

会社名 株式会社AIRDO
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 草野 晋
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 企画部担当 (氏名) 浦澤 英史 TEL (011) 252-5533
 定時株主総会開催予定日 2020年6月26日
 有価証券報告書提出予定日 2020年6月26日

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期の業績 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 経営成績 (%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	45,545	1.5	2,275	△25.3	1,629	△31.5	424	△61.4
2019年3月期	44,872	△5.5	3,045	18.7	2,378	24.3	1,099	△0.5

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年3月期	9,122.61	—	3.2	3.4	5.0
2019年3月期	23,653.34	—	8.1	5.0	6.8

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 ー百万円 2019年3月期 ー百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	45,543	12,851	28.2	276,364.05
2019年3月期	50,276	13,851	27.6	297,882.56

(参考) 自己資本 2020年3月期 12,851百万円 2019年3月期 13,851百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年3月期	—	—	—	3,000.00	3,000.00	139	12.7	1.0
2020年3月期	—	—	—	0.00	0.00	—	—	—
2021年3月期 (予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

2021年3月期の業績予想については、現時点において合理的に算定することが困難なことから未定とし、開示が可能となった時点で速やかに開示致します。

※注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期	46,501株	2019年3月期	46,501株
② 期末自己株式数	2020年3月期	－株	2019年3月期	－株
③ 期中平均株式数	2020年3月期	46,501株	2019年3月期	46,501株

※ 決算短信は、監査法人による監査対象外となります。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：百万円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	20,808	流動負債	14,263
現金及び預金	14,973	営業未払金	8,402
営業未収入金	489	1年内返済予定の長期借入金	350
有価証券	1,758	1年内返済予定の 関係会社長期借入金	275
貯蔵品	288	リース債務	1,940
前払費用	349	未払金	1,036
未収還付法人税等	640	未払費用	401
その他	2,309	未払法人税等	14
		預り金	51
		その他	1,791
固定資産	24,735	固定負債	18,428
有形固定資産	15,757	長期借入金	875
建物	285	関係会社長期借入金	687
航空機	2,905	リース債務	11,770
工具器具備品	238	退職給付引当金	806
リース資産	12,240	航空機材整備引当金	4,289
建設仮勘定	2		
その他	85		
無形固定資産	473		
ソフトウェア	472		
その他	0	負債合計	32,692
投資その他の資産	8,503	純資産の部	
投資有価証券	200	株主資本	13,921
長期前払費用	6,583	資本金	2,325
繰延税金資産	1,303	資本剰余金	947
その他	416	その他資本剰余金	947
		利益剰余金	10,648
		利益準備金	197
		その他利益剰余金	10,450
		繰越利益剰余金	10,450
		評価・換算差額等	△1,070
		繰延ヘッジ損益	△1,070
		純資産合計	12,851
資産合計	45,543	負債純資産合計	45,543

損益計算書

(自 2019 年 4 月 1 日 至 2020 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営業収入		45,545
事業費		38,988
営業総利益		6,557
販売費及び一般管理費		4,281
営業利益		2,275
営業外収益		
受取利息	69	
有価証券利息	36	
受取手数料	38	
リース解約益	22	
為替差益	23	
その他	23	213
営業外費用		
支払利息	676	
原油スワップ差損	177	
その他	5	859
経常利益		1,629
税引前当期純利益		1,629
法人税、住民税及び事業税	6	
法人税等調整額	1,198	1,205
当期純利益		424